

壇の岡

教育目標

強	美	学
心	心	よく
身	豊	心
を	か	学
鍛	で	び
え	思	自
た	い	己
く	や	を
ま	り	高
し	が	め
い	あ	る
生	る	生
徒	生	徒
	徒	



こちらから
各学年だよ
り等がスマ
ートフォン
からご覧
できます。

二学期を終えて

生活編

私は四十八才の主婦です。高校卒業後、栃木県から就職で、東京都浅草の商店に勤め始めました。そこにはひとつ上の先輩がいて、毎日毎日嫌がらせを受けました。足をのぼられたり、背中や腕をつねられたり。私もなんとか我慢しましたが、とうとう耐えきれなくなつて、一ヶ月後、郷里の父に長い長い手紙を書きました。

父からの返事は、「辛くても一年間は我慢しなさい」というものでした。それから、本当に辛い辛い日々が続きました。しかし、六ヶ月後、また、私は父に手紙を書きました。はがきいっぱいに自分の似顔絵とそして大きな涙を一粒書き込んで。父はすぐにやつてきてくれました。そして、お店のご主人に「わがままな子で申し訳ありません」と深々と頭を下げ、私を連れ戻してくれました。

栃木に帰る汽車の中で父は話してくれました。

「本当につらかつたんだね。でもこれで、人に意地悪をされるといふことは、どんなにつらいことかがわかつたね。このことに気づ

は、今でも胸に残っています。

私たちは、生徒のいい面を見つめるように心がけてやっています。時には注意せざるを得ない状況になることもあります。しかし、その場合でも生徒がそういう事をくり返し起こさないよう、丁寧に指導をしています。

その都度具体的な指導の結果、過ちを繰り返す生徒はいなくなり、逆に誉めることが多い2学期となりました。

デジタル社会で
大人ができること

子どもたちは、幼少期からスマホが存在し、小学校入学と同時にタブレットが配付され、コロナ禍を経て急激なデジタル化が進む社会の中で生活しています。SNSに起因するトラブルに巻き込まれる子どもが増えています。冬休みを前に、メディアコントロールについて家族で話し合う機会をつくってください。SNSの悪影響並びに鯨川中生の利用状況は、壇の岡No.11号に掲載してあります。

子どもは、多様性と寛容さを学ぶ

- ・「自分がされて嫌なことは他に人にしない」ってよく聞くけど？
- ・「自分がされて嫌なこと」は人によって違うことに気づく

早期発見・早期介入する（短期間で深刻化する）

- ・小さなサインを見逃さない
（月曜日の遅刻、居眠り、成績低下等）
- ・スクリーニングテストを実施する
- ・久里浜医療センター「インターネット依存テスト」

本人から話を聴き要因を探る

- ・本人からネット使用の話をよく聴く
（否定せずに話を聞くこと）
- ・学校や家庭、現実の日常生活につまづきはないか
現実から逃避するためにネット依存することが多い
- ・発達のあるいは精神的な問題はないか
必要があれば専門機関と連携する

① 第一歩

家庭が（安心できる）居場所として回復する

- まずは、要因を取り除き、離れること
- 「やめる」「やめない」ではなく他の依存先を増やすことも有効

22	21	20	19	18
金	木	水	火	月
2 学期終業式 愛校清掃・職員会議 部活動中止	1・2 年実力テスト 3 年標準学力検査	少林寺拳法授業（2 年） おにぎりの日 NO 部活動デー	少林寺拳法授業（2 年）	

週の行事予定

【今週の名言】
《人にかけるもの》

時間をかける
いい言葉をか

《人に与えるもの》

環境を与える
責任を与える
夢を与える
愛情を与える

